

気候変動とMS&ADグループの サステナビリティ取組みについて

2019年11月21日

MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス
総合企画部 サステナビリティ推進室 浦嶋 裕子

5つの保険会社・商品

損害保険

三井住友海上

安心のゴールキーパーでありたい。



クルマの保険

あいおいニッセイ同和損保



三井ダイレクト損保

三井ダイレクト損保の

自動車保険

自動車
保険

火災
保険

海上
保険

自賠責
保険

傷害
保険

その他
(賠償責任保険等)

生命保険

三井住友海上プライマリー生命



個人年金は、
未来への贈りもの。

三井住友海上あいおい生命



定期保険

終身保険

医療保険

年金保険

その他

サステナビリティ取り組み推進の枠組み

中期経営計画 “Vision 2021”

- 「価値創造ストーリー」を紡ぐ企業活動を通じて、社会との共通価値を創造し
- CSV (Creating Shared Value) 、2030年に目指す社会像を実現する。

社会的課題

社会をとりまく
多様なリスク

2030年に目指す社会像

安定した人々の生活

活発な事業活動

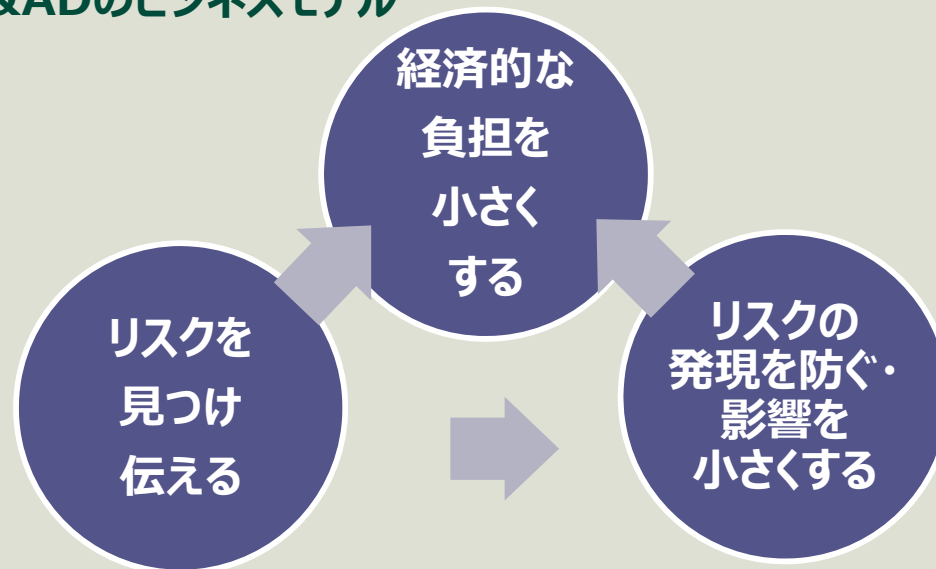
安心・安全の提供

レジリエントでサステナブルな社会



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

MS&ADのビジネスモデル



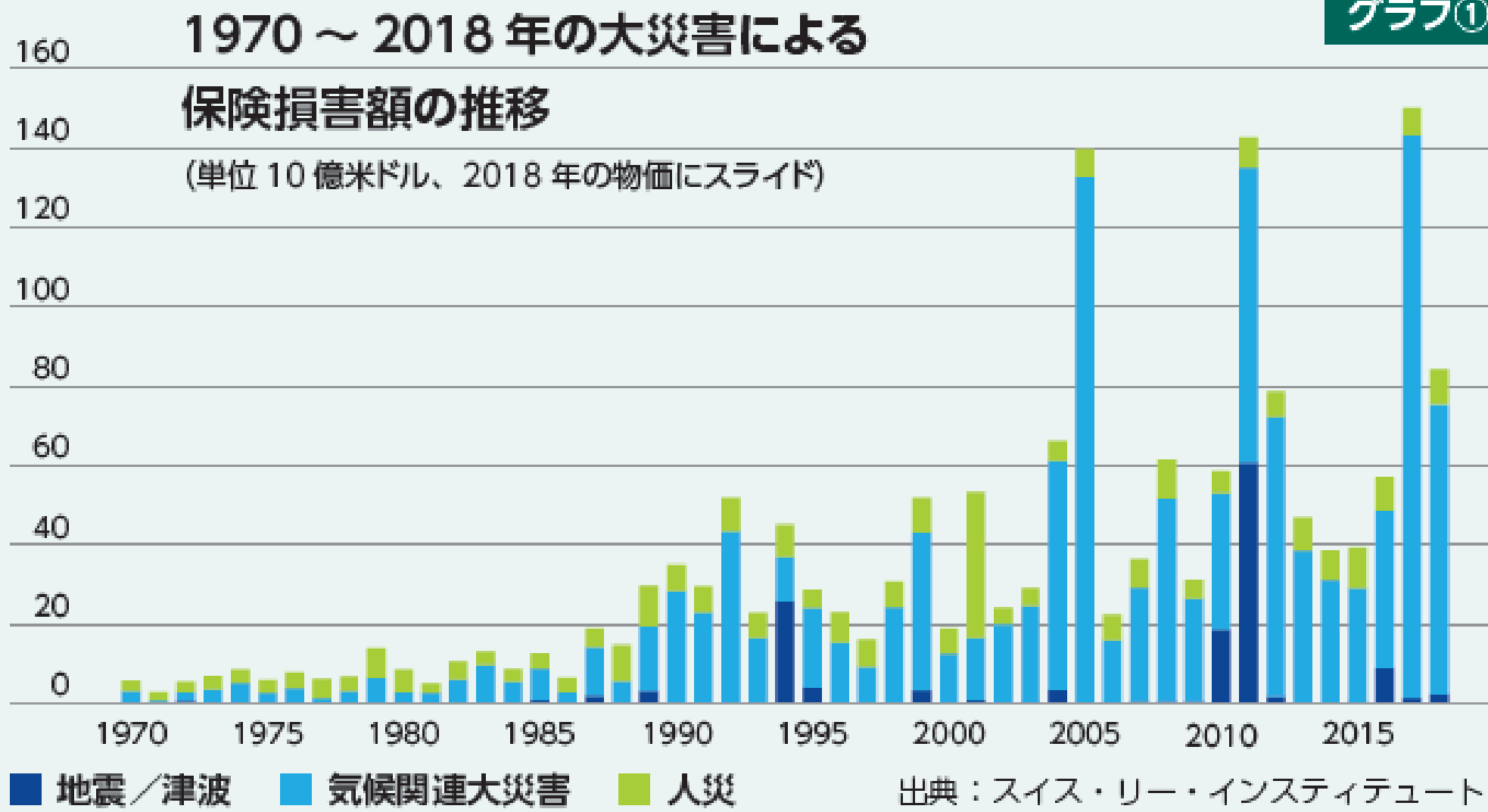
社会との共通価値を創造 (CSV)

- 新しいリスクに対処する
- 事故のない快適なモビリティ社会を作る
- レジリエントなまちづくりに取り組む
- 「元気で長生き」を支える
- 気候変動の緩和と適応に貢献する
- 自然資本の持続可能性向上に取り組む
- 「誰一人取り残さない」を支援する



気象災害は増加・甚大化傾向

グラフ①



風水災等による保険金お支払も増加傾向

風水災等による保険金の支払い

過去の支払保険金（災害例）

順位	災害名	地域	年月日	支払保険金（単位：億円）			
				火災・新種	自動車	海上	合計
1	平成30年台風21号	大阪・京都・兵庫等	2018年9月3日～5日	9,363	780	535	10,678
2	平成3年台風19号	全国	1991年9月26日～28日	5,225	269	185	5,680
3	平成16年台風18号	全国	2004年9月4日～8日	3,564	259	51	3,874
4	平成26年2月雪害	関東中心	2014年2月	2,984	241	—	3,224
5	平成11年台風18号	熊本・山口・福岡等	1999年9月21日～25日	2,847	212	88	3,147
6	平成30年台風24号	東京・神奈川・静岡等	2018年9月28日～10月1日	2,946	115	—	3,061
7	平成30年7月豪雨	岡山・広島・愛媛等	2018年6月28日～7月8日	1,673	283	—	1,956
8	平成27年台風15号	全国	2015年8月24日～26日	1,561	81	—	1,642
9	平成10年台風7号	近畿中心	1998年9月22日	1,514	61	24	1,599
10	平成16年台風23号	西日本	2004年10月20日	1,112	179	89	1,380

一般社団法人 日本損害保険協会調べ

※千万円単位で四捨五入を行い、算出しています。

※そのため、各項目を合算した値と合計欄の値が一致しないことがあります。

水災に対する補償について

○：補償されます（保険金をお支払いする事故） ×：補償されません

すまいの主なリスク

（保険金をお支払いする主な場合）

契約プラン

オススメ

マンション等の
共同住宅専用

フル
サポート
プラン

セレクト
（地震・火災なし）
プラン

セレクト
（水災なし）
プラン（注1）

		フル サポート プラン	セレクト （地震・火災なし） プラン	セレクト （水災なし） プラン（注1）
1	火災、落雷、破裂・爆発  建物の例）火災により建物が焼失した。 家財の例）落雷により家電製品がこわれた。	○	○	○
2	風災、雹災、雪災  建物の例）台風や雹で窓ガラスが割れ建物が損害を受けた。 家財の例）台風や雹で窓ガラスが割れ家財が損害を受けた。	○（注2）	○（注2）	○（注2）
3	水ぬれ  建物の例）給排水設備の破損により部屋が水びたしになった。 家財の例）マンション上階からの水漏れにより、家財が水びたしになった。	○	○	○
4	盗難  建物の例）泥棒により窓ガラスが割られた。 家財の例）泥棒により現金や家財が盗まれた。	○	○	○
5	水災  建物の例）大雨による洪水で床上浸水し、建物が損害を受けた。 家財の例）大雨による土砂崩れで床上浸水し、家財が損害を受けた。	○（注3）	○（注3）	×
6	破損、汚損等  建物の例）自動車飛び込んできて、建物がこわれた。 家具をぶつけてドアをこわしてしまった。 家財の例）誤ってコーヒーをこぼして、パソコンをこわしてしまった。 液晶テレビをテレビ台から誤って落としてこわしてしまった。	○	×	○
安心のサービス  暮らしのQQ隊 （水まわりQQサービス・カギあけQQサービス） 詳しくは25ページをご確認ください。		セット されます	セット されません	セット されます

水災補償が必要になる主な場合

台風による大雨で近くの川が氾濫し、
建物と家財が水没

集中豪雨による土砂崩れが
発生し家屋が全壊

集中豪雨で雨水がマンホールから
あふれ出し、床上浸水



出典：三井住友海上「GK すまいの保険」パンフレット

経済的な負担を小さくする

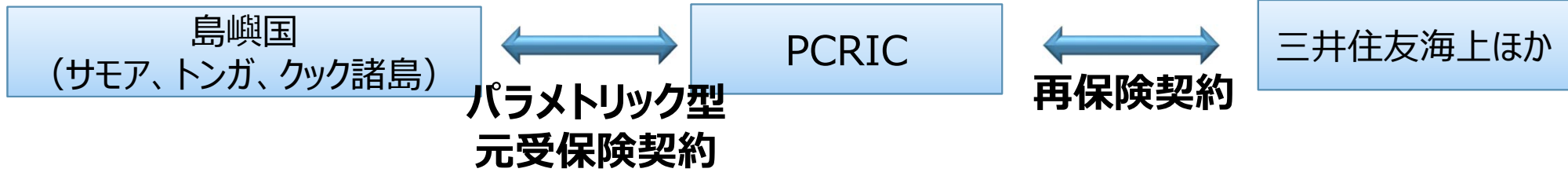
異常気象や天候不順による損失を軽減する

天候デリバティブ（金融商品）

多雨・少雨・強風・弱風 ⇒ 降水量／風速を指標	
● 建設業：工期遅延	● 運輸：フライトや航行のキャンセル
● レジャー・観光：来客数、旅行者数の減少、イベント開催の中止	
低温・高温 ⇒ 気温を指標	
● エネルギー会社：需要増大による追加エネルギー購入コストの発生	
日照不足 ⇒ 日照時間・全天日射量を指標	
● 太陽光発電事業：発電量の減少	● 農業：収穫量の減少

「太平洋自然災害リスク評価および資金援助イニシアティブ保険制度」

世界銀行が主導で設立した同制度の自然災害リスクの引受再保険会社の1社を務めている



建物の被災件数・被災率を自動的に予測 & 表示

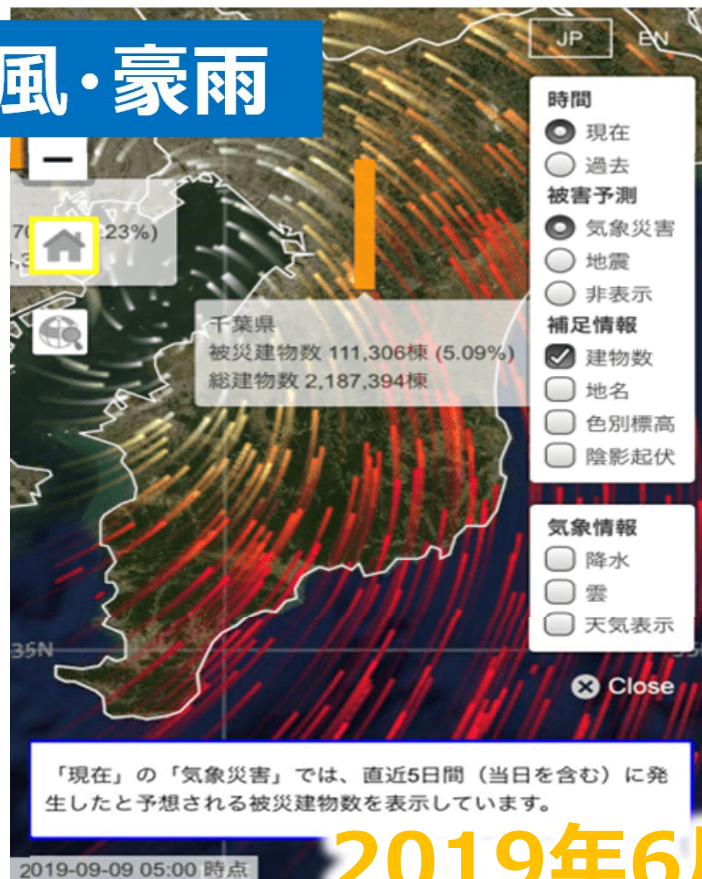
リアルタイム被害予測ウェブサイトの開設

大規模災害

被害規模の早期把握が困難

cmap.dev

台風・豪雨



地震



2019年6月より無償で一般公開

Large-scale Risk assessment of Climate change for Flood

MS&AD、東京大学、芝浦工業大学の三者で「気候変動による洪水リスクの大規模評価」を行うことを目的に、立ち上がったプロジェクト。



平林 由希子 教授

- ・地球温暖化と水循環の変化
- ・世界の長期水循環シミュレーション



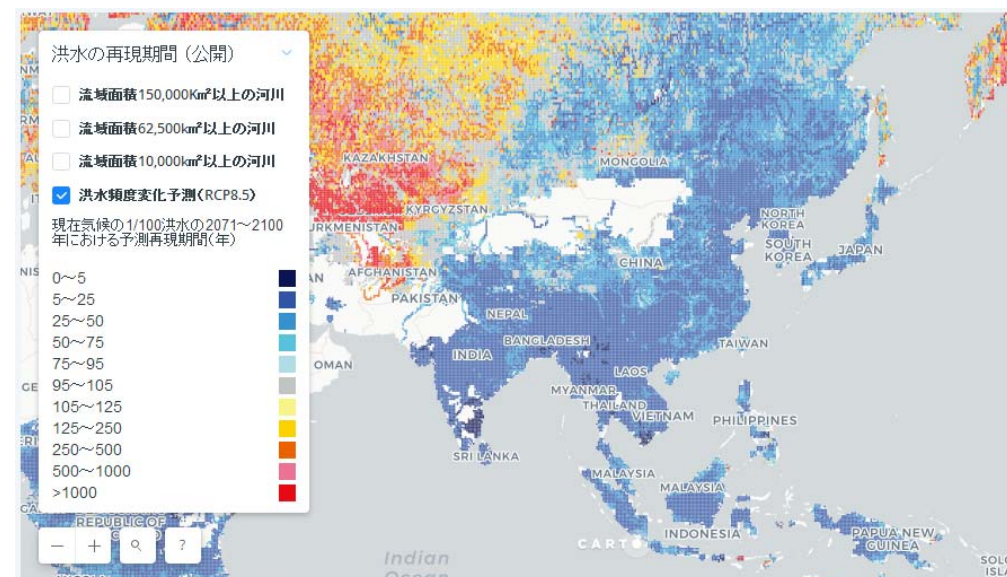
山崎 大准教授

- ・全球地表水動体
- ・陸域水文モデリング
- ・地表水衛星観測
- ・水文地形データ解析



MS&ADインシュアランス
グループホールディングス

MS&ADインターリスク総研



「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第5次評価報告書」でも紹介された“Global flood risk under climate change”の研究結果をweb-GIS上で閲覧できるプラットフォームを開設。グローバルに気候変動による洪水頻度の変化の度合いを見ることが可能。(利用登録により無料で閲覧)

マップへのアクセスはこちら <http://www.irric.co.jp/LaRC-Flood>

本サービスは以下の論文の成果に基づいています。

Hirabayashi Y, Mahendran R, Koirala S, Konoshima L, Yamazaki D, Watanabe S, Kim H and Kanae S (2013) Global flood risk under climate change. Nat Clim Chang., 3(9), 816-821. doi:10.1038/nclimate1911.

リスクの発現を防ぐ・影響を小さくする

Eco-DRRの評価と社会実装

人口減少時代における気候変動適応としての生態系を活用した防災減災の評価と社会実装 (Eco-Disaster Risk Reduction)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構
総合地球環境学研究所

第1グループ
自然災害リスク評価

第3グループ
制度・インセンティブサブグループ

第2グループ
多機能性評価

- 自然災害リスクの可視化（過去・現在・将来）
- Eco-DRR多機能性の評価・予測
- 超学際的シナリオ分析とEco-DRR利用の社会・経済的インセンティブの開発

危険な
自然現象
Hazard

暴露の回避

暴露
Exposure

災害リスク
の低減

脆弱性 Exposure

脆弱性の
低減

(図;ADRC,2005をもとに作成)

渡良瀬遊水地の様子





自然豊かで レジリエント な社会に向けた ファイナンス 先進事例に学ぶ



入場無料
・
要申込

定員150名
(先着順)
日英同時通訳

総合地球環境学研究所では、「人口減少時代における気候変動適応としての生態系を活用した防災減災(Eco-DRR)*の評価と社会実装」プロジェクトを実施しています。自然がもつ防災減災機能やそのほかの生態系サービスを評価すると同時に、自然を活かした災害に強いまちづくりを進める社会実装について研究しています。

欧米では、Eco-DRRを実現するための新たな金融や保険商品の導入が始まっています。こうした先進事例から、自然豊かでレジリエントな社会づくりに貢献する金融・保険スキームについて学び、Eco-DRRやグリーンインフラの社会実装の方策を考えます。

*生態系を活用した防災減災(Eco-DRR): 海岸の防災林による津波や高潮の減災、浸水地による水害の軽減など、生態系が持つ多様な機能により自然災害の被害を減らす手法。

2019 **12/4** (Wed.)
14:00 - 17:45
(13:30 開場)

会場

東京都千代田区神田駿河台3-9

**三井住友海上駿河台ビル
1F 大ホール**



Program

開会挨拶・趣旨説明

吉田 丈人 総合地球環境学研究所・東京大学 准教授

来賓挨拶

川埜 亮 国土交通省 総合政策局環境政策課 課長

植田 明浩 環境省 自然環境局自然環境計画課 課長

松岡 由季 国連防災機関(UNDRR)駐日事務所 代表

Case Study #1 サンゴ礁の保険 Coral Reef Insurance

事例発表

Jeffrey R. Bohn Chief Research and Innovation Officer, Swiss Re Institute

パネルディスカッション

【コーディネーター】

末吉 竹二郎 国連環境計画・金融イニシアティブ(UNEP FI) 特別顧問

【パネリスト】

蛭間 芳樹 日本政策投資銀行 サステナビリティ企画部 BCM 格付主幹 兼 経営企画部

武藤 めぐみ 国際協力機構(JICA) 地球環境部長

Case Study #2 森林レジリエンスボンド Forest Resilience Bond

事例発表

Zach Knight Co-Founder and Managing Partner, Blue Forest Conservation

パネルディスカッション

【コーディネーター】

原口 真 MS&AD インターリスク総研 リスクマネジメント第三部 サステナビリティグループ
主席コンサルタント

【パネリスト】

有馬 良行 世界銀行 財務局 駐日代表

中静 透 総合地球環境学研究所 特任教授

閉会挨拶

藤井 史朗 MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社
取締役副社長執行役員 グループ CFO

※プログラムの詳細は、今後変更になる可能性があります。

お問い合わせ Reference

MS&ADインシュアランス グループ
ホールディングス株式会社 総合企画部
サステナビリティ推進室
MS&AD Insurance Group Holdings, Inc.

Tel: 03-5117-0201
E-mail: sustainability@ms-ad-hd.com

お申込 Registration

申込締切 2019/11/22(金)
定員 150名(先着順)

下記Webサイトより、必要事項を明記のうえ、
お申込みください。
<https://ms-seminar.smktg.jp/public/seminar/view/1079>
※QRコードは一部の機種では読み取れない場合があります

